

## 報告事項

### 2018 年度事業報告

#### I 総括

日本建築家協会(JIA)は、2013年4月の公益社団法人への移行から6期目を迎え、引き続き公益団体として、「地域に根ざした公益事業」を旗印に全国の支部および地域会の活動を重視して、建築の質の向上、まちづくり活動への支援、環境の保全と創造、価値ある建築物の保存再生、建築文化の発展等をめざした事業を行いました。

本年度はこれに加えて、会員と組織の活性化を重要な課題と位置づけて、①会員の知見レベルの向上や情報交流の拡充による「JIA 建築家のリーダーシップ強化へのアシスト」、②建築関連の法・制度等に関する問題への適切な対応による「建築家の行政的課題の解決推進」、そして③国際交流活動の充実による「建築界を代表する外交的役割の効果的な遂行」という、年初に六鹿正治会長が掲げた3つのテーマに基づいた施策に注力しました。

本年度の特筆すべき活動としては、アジアの21の国・地域で組織するARCASIA(アルカジア:アジア建築家評議会)の一大イベント「アルカジア東京大会2018」を9月に開催し、成功裡に閉幕したことに加えて、関係団体からの支援も受けて、海外団体や海外建築家とのネットワークの充実、国内外に対して情報の収集・発信を強化しました。

また、建築設計界の活性化や建築家の業務環境改善のために、建築士法の改正、設計業務報酬基準の改定等に、建築設計3団体(JIA、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会)が連携して取り組みました。設計施工一括方式をはじめとする発注方式の多様化やCM(コンストラクション・マネジメント)業務の浸透、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)等の新技術の導入等、設計業務へ大きな影響を与える動きに対しては、国交省等の検討会におけるJIAの意見表明や関係団体との意見交換に加え、理事勉強会の開催や会報誌への掲載等でJIA内の情報共有にも努めました。

一方で、今後建築市場の縮小が懸念される中、JIA 会員の高齢化と会員数の漸減傾向が止まらない状況です。これに対して、会員への情報提供の充実や若手勧誘のためのパンフレット作成に加えて、委員会体制再編に関する検討(担当:総務委員会)、財政問題に関する検討(担当:財政委員会)のほか、中長期的な視点による「建築家とJIAの将来像」に関する検討(担当:近未来研究特別委員会)を行っています。

#### [2018 年度分野別の主な事業活動]

2018年度の分野別の主な事業活動は以下の通りです(各委員会・全国会議等の事業活動報告および支部長報告については別途記載しています)。

## 1. 建築環境整備事業

### 1) 環境保全活動

住宅をはじめとする建築物や都市の環境保全、省エネルギーの推進を目的に、市民や関係官庁への普及広報活動を行っています。また、国交省社会資本整備審議会建築分科会の「今後の住宅・建築物の省エネルギー対策のあり方」検討へ参加、民間企業グループと連携して「木材利用促進セミナー」の開催、改正省エネ法の説明会への支援を実施しました。

### 2) まちづくり・建築文化財保存再生活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮したまちづくりをめざして、支部・地域会を中心に、市民参加のセミナーやシンポジウムの開催等、地域に密着した取組みを実施しました。また、自治体による設計者選択に関してプロパーザル方式導入の促進に努めました。さらに、文化財としての価値の高い建築物の保存再生のため、「文化財修復塾」制度の運営、他団体と連携して建築物の調査等の活動を実施しました。

### 3) 災害対策活動

6月の大阪府北部地震、9月(2月に再度発生)の北海道胆振東部地震の発生に際して、JIA災害対策本部を設置し、今後の行政等からの支援要請へ対応する体制づくりを行ったほか、1月に再度発生した熊本地震に対しては現地支部・地域会を主体に復興支援体制をとっています。また、2011年発生 of 東日本大震災の復興に関しては、支部・地域会を中心に地域に密着した支援を続けています。さらに今後発生が想定される地震等の災害への対策として「JIA 地域継続計画(仮称)」の検討を進めました。

### 4) 建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会の建築相談委員会や建築相談室が住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

## 2. 建築文化育成・交流事業

### 1) 表彰活動

「JIA日本建築大賞」「JIA優秀建築賞」「JIA新人賞」「JIA 25年賞」「JIA環境建築賞」を主催し、受賞作品を日本建築家協会優秀建築選(JIA建築年鑑)へ収録し、6月に出版を行いました。「建築家のあかりコンペ」のほか、支部・地域会による地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会の主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

### 2) 交流活動

広く一般市民に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、支部・地域会が主体となって、建築物やまちなみの見学会、建築文化に関するシンポジウム、講習会、建築作品の展示会の開催、建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実施しました。

### 3) 国際協力活動

UIA(世界建築家連合)、ARCASIA、および各国の建築関係団体等との情報交換・交流を

行いました。9月には、「アルカジア東京大会 2018」を開催しました(詳細は本項末尾記載)。本部による活動のほか、支部等による海外交流も行っています。

また本年度は、一般社団法人日本建築センターからの支援を受けて、従来から JIA が実施している海外団体との交流により得られた海外の情報を報告書に取りまとめ、会員を含め、広く社会に伝えるための報告会を3月に開催しました。

#### **4)教育・育成活動**

建築家をめざす大学生・大学院生対象の「オープンスクール」、大学院生向けインターンシップへの支援、学生向けの短期実習を行う「オープンデスク」といった教育・育成支援制度の運営を行いました。また、会員向けには、新入会員対象の「フレッシュマンセミナー」、今後の JIA を担う中堅会員対象の「リフレッシュセミナー」等の各種研修を実施しました。

### **3. 建築制度整備事業**

#### **1)継続職能研修(CPD)制度運営**

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定(2018 年度に認定したプログラム総数 1,456 件)、CPD 取得状況の管理、他団体との連携推進をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、インターネット受講可能プログラム「JIAWeb セミナー」のコンテンツの拡大(3月時点コンテンツ数 44 件)や管理システムの高度化を進めました。

#### **2)建築家資格制度運営**

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施しました。JIA 正会員全員を登録建築家へ導くため、担当委員会にて、登録の要件をはじめ、きめ細かく関連規程等を精査し、資格制度の整備を行いました。また全国の支部をあげて会員の登録促進に努めました(2019年4月1日建築家資格制度登録者数見込み 1,790 人)。

#### **3)建築関連の法・制度の調査研究・提言**

建築設計 3 団体が、若手の建築士資格取得促進等を主目的に「建築士法改正」を要望し、関係者に働きかけて 12 月に成立をみました。

また、「設計業務報酬基準(告示 15 号)」改定に向けた国交省の検討委員会では建築設計 3 団体が連携して適切な意見の提出を行ったほか、「CM 方式(ピュア型)の制度的枠組みに関する検討会」をはじめとする国交省の会議等へ参加しました。さらに、公共建築設計懇談会(国交省大臣官房官庁営繕部と建築設計 3 団体で構成)では、発注者支援、設計者選定等の課題に関して、プロポーザル方式の導入促進に向けた意見等を表明しました。

BIM 導入の動向等の建築設計界の新しい動きに関しては、JIAの理事勉強会の開催をはじめ会員への情報提供を進めました。

## アルカジア東京大会 2018 の概要

### ■大会概要

大会名称	アルカジア東京大会 2018 (18th Asian Congress of Architects)
大会テーマ	Simplicity   Multiplicity
開催期間	2018 年 9 月 10 日～9 月 14 日
開催会場	明治大学 駿河台・中野キャンパス他
主 催	日本建築家協会
特別協力	東京都、明治大学
後 援	国土交通省、日本建築学会、日本建築士会連合会、 日本建築士事務所協会連合会、日本建設業連合会
特別協賛	森ビル株式会社、森美術館
協 賛	2 団体、37 企業
寄 付	4 団体、22 企業

### ■主なイベント

- 9 月 10 日 アルカジアの 5 つの委員会開催  
UIA リージョン 4 (アジア・オセアニア地区) 会議、フェロー会議開催  
(ウェルカムレセプション)
- 9 月 11 日 理事会開会式、理事会 1 日目  
(デザイントーク: 日本から伊東豊雄氏と妹島和代氏その他の方々が参加)
- 9 月 12 日 理事会 2 日目、選挙  
(アルカジア建築賞受賞式)
- 9 月 13 日 大会開会式、建築未来展開催 (出展社数 76)  
基調講演および 3 つのテーマセッション  
基調講演者: カイ・ウーヴェ・バーグマン氏 (デンマーク建築家)、榎 文彦氏  
(フレンドシップナイト)
- 9 月 14 日 基調講演および 1 つのテーマセッション  
基調講演者: ヤスミン・ラリ氏 (パキスタン建築家)  
開会式、引継ぎ式

上記の他、学生ジャンボリー (学生コンペ、ワークショップ)、受賞作品展示、各種テーマ展示、建築・都市見学ツアー等実施

■参加者数 856 名 :うち外国人約 646 名、日本人 210 名

(ブータンを除く 20 のアルカジア加盟協会が参加)

建築展、協賛・寄付企業の関係者等を含むと約 1,000 名の参加

■費用規模 約 1.4 億円

## II 2018 年度通常総会

2018 年度通常総会を 6 月 26 日午後 2 時 30 分より 4 時 30 分まで、東京 建築家会館 1 階大ホール(東京)にて開催しました。正会員数 3,673 名の内、書面表決者 1,584 名、委任状提出者 554 名を含む出席者総数 2,202 名により総会が成立し、議長に鈴木弘二会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

### [2018 年度総会議案]

- 第 1 号議案 2017 年度貸借対照表及び損益計算書、財産目録の承認の件
- 第 2 号議案 建築家憲章、倫理規定、行動規範(ガイドライン)改訂の件
- 第 3 号議案 理事及び監事の選任の件
- 第 4 号議案 名誉会員選任の件

## III 2018 年度理事会

2018 年度理事会を、臨時理事会 1 回・理事会書面審議 3 回を加えて合計 12 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。

### [2018 年度理事会議事]

#### 1) 第 247 回理事会(4 月 26 日開催)

- ①入退会者について
- ②近未来研究特別委員会委員長委嘱について
- ③中国支部規約改正について
- ④UIA (国際建築家連合) への委員派遣に関する日本建築学会との覚書について
- ⑤日本建築センターとの海外建築設計団体等調査業務委託契約について
- ⑥自由民主党建築設計議員連盟に対する三会要望書提出について
- ⑦都市計画法・建築基準法制定 100 周年記念事業協賛の件
- ⑧活動及び業務執行状況報告

#### 2) 第 248 回理事会(6 月 1 日開催)

- ①入退会者について
- ②会員資格喪失者について
- ③委員会委員長・委員、全国会議議長・委員委嘱について  
(教育・表彰委員会、総務委員会、財務委員会、業務委員会、職能・資格制度委員会、アルカジア大会実行特別委員会、本部建築家資格制度実務委員会、JIA 保存再生会議、JIA 建築相談会議、JIA まちづくり会議、JIA 災害対策会議、JIA 環境会議)
- ④2018 年度通常総会開催及び議案について
- ⑤懲戒規程、会員への苦情に対する組織とその運営に関する規程改正について
- ⑥委員会規程改正について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

#### 3) 第 249 回理事会(6 月 26 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員・全国会議委員委嘱について  
(広報委員会、教育・表彰委員会、フェロウシップ委員会、JIA まちづくり会議、JIA 災害対策会議、JIA 環境会議)
- ③本部職員の給与規定・退職金規定・就業規程改正について

④正会員入会申込書の一部改正について

⑤総会白紙委任状の取扱いについて

**4)臨時理事会(6月26日開催)**

①会長、副会長及び支部長選任について

②顧問の再任について

**5)理事会書面審議(8月3日開催)**

①入退会者について

**6)第250回理事会(8月29日開催)**

①入退会者について

②委員会委員、全国会議委員委嘱について

(選挙管理委員会、JIA まちづくり会議、教育・表彰委員会タスクフォース)

③CPD Web プログラムの JAEIC 動画配信システムへの提供に関する取決めについて

④活動及び業務執行状況報告

**7)第251回理事会(10月17日開催)**

①入退会者について

②職能・資格制度委員会委員長委嘱について

③日本建築学会との「平常時及び災害時における歴史的建造物の調査及び情報共有等に関する協力協定書」更新について

④活動及び業務執行状況報告

**8)理事会書面審議(11月26日開催)**

①入退会者について

**9)第252回理事会(12月13日開催)**

①入退会者について

②建築家認定評議会委員委嘱について

③(仮称)BIM 特別委員会設置について

④シニア会員の入会金の取り扱いについて

⑤JIA 公益事業活動助成採択について

⑥活動及び業務執行状況報告

**10)理事会書面審議(1月28日開催)**

①入退会者について

**11)第253回理事会(2月14日開催)**

①入退会者について

②(仮称)BIM 特別委員会委員長委嘱について

③(仮称)SDGs 建築ガイド日本版編集特別委員会設置及び委員長委嘱について

④活動及び業務執行状況報告

**12)第254回理事会(3月14日開催)**

①入退会者について

②委員会委員委嘱について

(名誉会員選考委員会、BIM 特別委員会、SDGs 建築日本版特別委員会)

③フェロー会員推挙について

④委員会再編の基本方針について

- ⑤知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会への参加及び会費納付について
- ⑥2019年度事業計画(案)及び予算(案)について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

## IV 建築家認定評議会等

### 1. 本部建築家認定評議会

- 1) 新任評議員 3 名へ資格制度の概要・意義・課題を説明しました。
- 2) 2018 年度本部建築家認定評議会を 2019 年 3 月 19 日に開催しました。議事は以下の通りです。
  - ①登録建築家の認定、更新及び再登録について  
 審査結果は以下の通りです
    - ・新規認定審査 正会員の申請者 21 名、合格者 21 名(非会員の申請者 0 名)
    - ・登録更新審査 対象者 1077 名、申請者 759 名、合格者 759 名
    - ・再登録審査 申請者 5 名、合格者 5 名、  
 物故者等を除いた登録建築家の総数は 1,790 名(うち JIA 正会員 1,665 名、正会員の一級建築士の 45.1%)となりました。2015 年の優遇措置で登録した者の初回更新時でしたが、CPD 単位取得不足で未申請となる人が多く 300 名を越す減少となりました。
  - ②審査マニュアルの改訂発議の承認と、細則・運営マニュアルの改定作業の中間報告
  - ③議事録の公開について
  - ④支部建築家認定評議会評議員の選考について
  - ⑤資格制度について意見交換

### 2. 本部建築家資格制度実務委員会

- 本部建築家資格制度実務委員会は計 8 回(内 7 回を職能・資格制度委員会と合同で)開催し、主な作業として以下を行いました。また意見交換会を 1 回開催しました。(後述「職能・資格制度委員会」報告参照)
- ①ホームページ上に公開される登録申請説明書の細部修正
  - ②建築家資格制度細則・審査マニュアル、登録建築家運営マニュアルの改訂準備
  - ③支部認定評議会についての検討
  - ④東京大会シンポジウム企画・運営(職能・資格制度委員会と共催)
  - ⑤関東甲信越支部機関紙「Bulletin」「改めて登録建築家を考える」連載
  - ⑥本部認定評議会議事録公開検討
  - ⑦2018 年度の登録建築家の認定・更新・再登録について、各支部建築家認定評議会から提出された報告書の取りまとめ等、本部建築家認定評議会の審査に向けた準備

## V 本部役員候補者選挙

10 月 15 日発行の「JIA MAGAZINE 355 号」で 2019 年度本部役員候補者選挙告示を行い、役員候補者が確定し、2018 年 12 月 15 日に第 2 回告示を行いました。

[2019 年度役員候補者(2019 年度総会にて役員就任を審議する予定)]

(氏名)	(所属支部)
<b>【理事候補者】</b>	
森 暢郎	関東甲信越支部
渡邊 太海 (再任)	関東甲信越支部
林 美樹	関東甲信越支部
上垣内伸一	関東甲信越支部
奥野 美樹	東海支部

高屋 利行 (再任) 北陸支部

宮田 哲 (再任) 近畿支部

島 桐子 近畿支部

柴田 真秀 九州支部

伊良波朝義 沖縄支部

**【監事候補者】**

中尾 利弘 (再任) 関東甲信越支部



## VI 委員会活動等報告

### 1. 委員会活動

#### 1) 職能・資格制度委員会

正会員のうちの対象者全員が登録建築家であるはずの JIA の本来の姿を実現することをミッションの軸に、以下を重点項目として計9回、開催しました。作業面から、7回を本部建築家資格制度実務委員会との合同委員会とし、また随時メール稟議や有志による対面協議会などを実施しました。

①登録建築家の資格によるメリットの、一般依頼者層への普及

依頼者保護等についての交付説明書の完成とリーガルチェック

②登録建築家の資格による、建築家側のメリットの創出と推進

プロポーザル参加の代替要件化などの自治体等への説得ツールの最終推敲

③WG 作業成果の取りまとめ(建築家資格制度の、一般・JIA 会員・専門家向けの簡潔な説明)

なお、2018 年度の認定評議会における審査結果は別記のとおりで、登録建築家数の 2014 年度末からの推移は 1754→2010→2139→2091→1790(名)という状況です。この減少は、一級建築士法定講習の受講期限特例廃止や「見なし 18 単位」扱いの廃止の周知を含めた、更新対象者への CPD 履修督促が、(特に前回 CPD 優遇措置を受けた再登録者に対しては)例年どおりのままでは不十分だったためと判断されます。

2015・2016 年度のキャンペーンの総括、JIA として建築家資格制度の推進方法の見直しなど、2019 年度は大きな転機の年になります。本委員会が制度そのものの普及を図るにあたり、年間を通じた登録建築家や JIA 会員内外への様々な告知を実務委員会との協働で進めます。

#### <ワーキンググループ活動>

##### 職能要件 WG

「技術資格と職能資格の差の洗い出し」と「建築士と建築家の差を構成している要素を一般社会に解りやすく提示するための戦略」の2つを軸に議論、成果を「提案集」「発言集」ならびに JIA の HP の「建築家とは」の改訂試案としてまとめて 10 月に終了しました。委員会での議論の継続・深化は上記のとおりです。

##### CPD 評議会

2019 年度からは当委員会の WG の位置づけではなくなる予定です。

#### 2) 業務委員会

今年度の業務委員会は、本委員会を 4 回開催して建築設計界の課題の取り組みについて議論を重ねました。そして官庁営繕部等と三会(JIA、士会連合会、日事連)で構成されている公共建築設計懇談会(4 回開催)に参加し、意見や要望を伝えました。

また、「建築士資格制度改善」の議員立法活動に対応し、国交省設置の「建築士資格に係る実務経験」検討会や「CM方式(ピュア型)の制度的枠組み」検討会における課題について意見交換(分科会 8 回)を行いました。さらにこれらの検討課題の三会協議に関係する委員が、国交省への三会共同提案の取りまとめを主導しました。

一方、国交省からの意見照会、①建築設計業務におけるBIM活用、②施工段階における関係者間調整の円滑化、③ブロック塀に関する安全性確認など 7 件にすべて応答し、少なからずガイドライン等の作成に貢献できたと考えています。

#### <ワーキンググループ活動>

##### ①建賠 WG

事故防止のため、また、会員の負担軽減のため、主として以下の項目を実施しました。

- ・建築に関する事故防止を目的に「JIA 建築家賠償責任保険図解事故例集(構造編)」の発行に協力。
- ・沖縄、四国、福岡、東海、東北各支部でのケンバイ勉強会に出席し建賠の仕組み、事故事例を説明。  
(ケンバイ勉強会については各支部2年に1度開催を目安としており、2019年度は2018年度未開催の支部にて開催予定)
- ・約款のうち不明確な部分を修正。

## ②約款 WG

民法(債権関係)改正が2020年4月1日に施行されます。この施行日にあわせ「民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款」、「四会連合協定建築設計・監理等業務委託契約約款」及び関連する各種約款、契約書類の改正を行います。現在、構成団体委員による約款改正検討委員会において、民法改正条項を踏まえ現行各約款との関連条項を法務及び実務面から検討を重ね成案をめざしています。また、告示第98号の施行を受け関連事項を約款改正に反映します。約款WGは約款条項改正に対しJIAとしての確かな意見提案を行っています。

## ③仕様書 WG

国交省大臣官房官庁営繕部からの「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版」等への改定対応窓口として、建築工事の改定案(建築工事新築、建築工事改修、木造工事、解体工事)の内容確認、修正案の洗い出し、取りまとめを実施。一次データを5月末、二次データを10月末に提出しました。

また、2000年発行の「建築工事特記仕様書」(日本建築家協会編)の改定見直し機運が高まり、建築3団体として改定の可否を含めた特記仕様書の在り方を検討する「建築三会特記仕様書WG」の提案を行いました。実質の検討は2019年度となる見込みです。

## 3)財務委員会

昨年度に引き続き、財務問題の整理を行いました。全支部アンケートにより、各支部の財務実情の把握から多様な財務構成があることが明確になりました。

支部の特性を保ちながらも支部間の不公平感の払拭、JIA全体としての適正な「あり方」の提言を目指し、会員減少の続く中で、正会員総数3000人のシミュレーションを検討しました。理事会に提示したうえで、財務問題に特化した理事懇談会の開催を企画。結果、JIA全体としての課題に対する理解レベルは上がったと考えます。

支部配分基礎費を正会員会費収入の変動に連動した金額設定とすることを理事会で決議いただくことを端緒に、財務の本質議論を深めていく予定です。

## 4)総務委員会

本部総務委員会は会員管理を担っており、正・準・協力会員の入退会を毎月審議して理事会に議案として挙げております。2018年度は4月26日理事会承認の正会員数3,732名から始まり2019年3月14日理事会承認で3,683名(49名減)となり約1.3%の減少となりました。例年より減少率は低いです。根本的対策としてJIAの価値向上が急務と考えます。

2013年の新法人移行及び本部委員会再編から6年が経ちました。昨年度、理事会から付託を受けた委員会再編をベースにJIAの価値向上のため、JIA活動のあるべき姿を理事会で議論しながら総務委員会でもとめ、第254回理事会(2019.3.14)で「JIA委員会編の基本方針」を決議しました。この方針に基づいて1年間を目途に組織再編を進めます。

## 5) 広報委員会

2018年の六鹿会長による年頭所感にある「会員の活動の連鎖の誘発」を作り出すことをコンセプトとして活動しました。

- ・JIA MAGAZINE では各支部で行われている活動を紹介する企画を増やし、支部長インタビュー連載を開始。各支部で行われている賞やシンポジウムについても横並びでわかるような企画も行う予定です。また、会報誌はアーカイブとしても有効なツールであるため、JIA や建築設計界の現在がわかるような視点も取り入れています。
- ・アルカジア東京大会開催に向けて若手会員勧誘のためのパンフレットを作成しました。
- ・HP は改訂のための検討を開始。費用の自主的な確保を含めた取組が必要と判断し、来期も引き続き検討を行う予定です。

## 6) 教育・表彰委員会

当委員会は、教育プログラムおよび表彰プログラムの双方に関する活動を担当しています。今年度は、会員と将来の会員候補である学生への教育活動の活性化や、現状の表彰制度のさらなる改良などが主要な議題となりました。それらを踏まえて、各スクール・セミナーの活動を行う教育担当と、各賞の活動を行う表彰担当、CPDプログラムの活動を行うCPD担当を中心に、教育ではオープンデスク、大学院インターンシップ、リフレッシュセミナーなど、表彰では日本建築大賞、優秀建築賞、新人賞、25年賞、環境建築賞、建築家のあかりコンペなどの活動を行いました。

## 7) フェローシップ委員会

月1回、Webで委員会を行い、全国の支部から参加していただいている委員が各地で行われている活動の情報収集、交換を行い、全国の活動を見渡すことで今後の活動のあり方を議論してきました。

### ① 地域会活動情報データ

各支部、地域会で取り組んでいる公益活動の情報収集を行い、項目ごとに整理を行い一覧にすることで、今後の活動の参考になるデータベースを作成しました。

### ② 全国地域会長会議の運営

地域会活動情報データに基づき、今の活動の課題をピックアップし、全国大会時全国の地域会長等代表で、議論を行いました。

### ③ フレッシュマンセミナー(支部主催、本部支援)

概ね入会后5年以内の新入会員を対象に、全国の仲間と出会い考える1泊2日の研修を、今年は大阪で近畿支部主催のもとで行いました。

### ④ ウェルカムオフィス(学生向)

建築を志す学生向けに、一定期間の研修を課すのではなく、気軽に事務所をのぞいてもらい、相談、体験等を通して、もっと身近に建築家の存在を感じてもらおうという仕組を行いました。

## 8) 国際交流委員会

今年度の最も重要な活動は、アルカジア東京大会2018の開催に向けて、アルカジア大会特別委員会と協働して大会準備を行ったことです。

新しい事業として(一財)日本建築センターの業務委託を受け、JIAの国際交流活動について、また活動を通じて得た国際建築界の情勢について、報告書にまとめ報告会で発表しました。協定締結団体のアメリカ建築家協会(AIA)の、AIA大会ニューヨーク(6月)、及びタイ王立建築家協会(ASA)のASA大会バ

ンコク(5月)の他に、新規にスリランカ建築家協会(SLIA)とスウェーデン建築家協会(SA)の招待を受け、SLIA 大会コロンボ(2月)と SA 大会ストックホルム(3月)に参加しました。UIA の SDGs 委員会と教育委員会、またアルカジア各委員会に継続して委員を派遣しています。他には香港建築師学会(HKIA)、王立英国建築家協会(RIBA)等との個別の交流を行いました。

## 2. 必要時に立ち上げる委員会

### 1) 選挙管理委員会

2018年10月2日開催の第1回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日程等を決定し、10月15日に第1回告示を行いました。11月30日の立候補締切り日までに理事候補者、監事候補者とも候補者数と定員が同数であったため、投票は実施せず、候補者確定の第2回告示を12月15日に行いました。候補者等については前述の「V 本部役員候補者選挙」に記載しています。

### 2) 名誉会員選考委員会

2018年度通常総会に推挙する名誉会員について、5月15日に委員会を開催し、支部推薦3名、海外推薦2名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【支部推薦】 下村憲一会員(北海道支部)

清水一男会員(東海支部)

吉村篤一会員(近畿支部)

【海外推薦】 カール・エレファンテ氏 (AIA 会長)

アチャポン・ドゥシットナノン氏 (ASA 会長)

## 3. 特別委員会

### 1) 近未来研究特別委員会

準備委員会より託されたテーマ「JIAは2030年に生き残っていけるか」「建築家は2030年に生き残っていけるか」に答えるために全体会議とグループごとのワーキングを重ねて研究を深めました。ワーキンググループは組織及び建築家のこれからの在り方を考えるため、次の5つのテーマを設定しました。

①信頼性回復 WG

②発注方式 WG

③社会ニーズ WG

④次世代の職能 WG

⑤これからの組織 WG

中間報告として2018JIA 東京大会若手セッション、2019 関東甲信越支部新春の集いにて発表及び意見交換を行った後、意見を踏まえ最終報告書にまとめています。

### 2) ARCASIA 大会特別委員会

アルカジア東京大会 2018 に向けて前年度に続いて綿密な開催準備を行い、開催時には主体となって大会及びアルカジア学生ジャンボリーを運営しました。大会終了後には、開催までの経緯、準備、運営、プログラム等について「アルカジア東京大会 2018 報告書」として記録し、同大会に関わっていただいた行政、建築関連諸団体、寄付・協賛企業、会員に向けて報告会を開催しました。大会公式ウェブサイト等の一定期間の保持業務を残し、同委員会は活動を終わりました。

### 3) 職責等検討特別委員会

JIA が公益社団法人に移行して以来、正会員に対する苦情が多岐に亘ったことから、正会員と JIA が安易な訴訟対象とならないよう、規程類の最小限の見直しを行いました。最終的には、「建築家憲章」「倫理規程」「行動規範(ガイドライン)」(以下「憲章」等)の改訂を理事会(6月1日)承認の後、総会(6月26日)で決議していただき、また、「懲戒規程」及び「会員への苦情に対応する組織とその運営に関する規程」の改訂を理事会(6月1日)で承認していただきました。

なお、上記総会の席上、「憲章」等を遵守する対象として、「正会員」と「会員」の使い分けについて「定款」や「会員規程」と記載の整合性についての疑義等をいただきましたが、これについても当委員会で検討し、顧問弁護士の助言も得て見解を理事会(8月29日)で報告いたしました。「定款」では、準会員、協力会員といった正会員以外の「会員」も遵守すべき基準として「憲章」等を位置付けているが、正会員以外の会員はこれらを誓約することまでは求められないとの解釈です。

### 4) 告示 15 号特別委員会

前年度、設計事務所を対象に実施された実態調査の結果に基づく、分析・とりまとめに対し、当委員会では、検討・意見発信・調整を積み重ねていきました。本年1月21日の国交省による「改正告示の公布」「技術的助言の発出」「業務報酬基準のガイドラインの公表」がその成果となりました。合わせて、合同で開催された説明会や、ガイドラインの配布を通じて、周知を図っています。改正というミッションは一応終了しましたが、多くの課題が残されています。信頼性ある業務報酬基準へと高めていくため、会員の皆様には引き続きご協力をお願い致します。

### 5) BIM 特別委員会

日本の建築界において、BIM 活用の重要性が叫ばれており、この普及は建築生産システムの変革に至るといわれています。本特別委員会は、JIA として BIM についての調査、研究、提言を行うことを目的に設置されました。国等の検討会に参加することに加えて、2020年5月までに提言を行う目標で、調査、研究を行っています。

### 6) SDGs 建築日本版特別委員会

UIA で刊行された国連 SDGs 建築ガイドについて、JIA として「SDGs 建築ガイド日本版」を、日本の実例等を追加して、翻訳編集出版すること等を行い、日本の建築界の SDGs に関する発信は、JIA (UIA) が主導することを狙っています。本特別委員会は本年3月に第1回会議を開催し、2019年度に具体的に日本の事例で評価選択作業を進めることとしています。なお、6月に開催されるバクーUIA 大会、AIA 大会等で披露することを予定しています。

## 4. 全国会議

### 1) JIA 環境会議

建築家大会 2018 東京で第5回環境会議を開催。北海道支部と沖縄支部の活動報告を中心に、各支部とリサーチユニットが報告を行い今後の方針を議論しました。環境会議 WG は東京で隔月に開催 (WEB 会議による) しました。

国交省社会資本整備審議会建築分科会建築環境部会に委員として参加しました。建築物省エネ法施行後の展望について国交省と意見交換を行いました。国交省の建築物省エネ法説明会に講師を派遣しました。

[シンポジウム・セミナー等の開催実績]

- ・木材利用促進セミナー 木造建築の新潮流（7/29 東京）、木造建築の新視座（10/29 東京）
- ・再生可能エネルギー利用と建築デザイン（5/12 東京）
- ・環境セミナー/自然の力でデザインする（2/28 東京）
- ・環境懇話会（Vol.9～14 東京）

## 2)JIA建築相談会議

JIA発足以来、建築相談活動は典型的な最善の社会貢献活動の1つと認識しております。

2018年度の活動として、JIA全国大会の建築相談全国会議で『全国統一の相談カードを活用して、相談結果のデータベースを構築し、知的な蓄積を図りたい。』とまとめています。

これは、各地域会の建築相談活動に於いて、課題解決支援に役立てる様に知的な蓄積を目的とするものです。

また、2018年建築相談全国会議に於いて、大竹司人 関東甲信越支部建築相談委員長より、上記建築相談記録のデータベース活用を図るため、試行中と発言があり、今後も具体化に向けて継続活動して参ります。

## 3)JIA保存再生会議

今年で5年目を迎えたJIA保存再生会議ですが、東京大会で開催した全国フォーラムでは、地域での多様な保存・再生活動を直接報告頂き、各地域からの「連絡と集約」を図りました。その中の大きなトピックとして、近現代建築の保存問題がありますが、それら近現代建築の地域の中での位置づけが、まだまだ不十分であるように思われます。文化庁の「近現代建造物緊急重点調査事業」等の展開を見据えつつ、引き続き全国組織であるJIAの保存・再生問題に関するプラットフォームとしての機能を果たしてゆきます。

## 4)JIAまちづくり会議

JIAまちづくり会議は、JIA事業計画の重点施策である「日本版CABEの推進」とともに、全国10支部とまちづくり活動に関する情報交換を行っています。具体的には、「良質な建築・街づくり萌芽事例シート」により、全国大会時やWEB会議を通して情報の共有と支部地域会への展開を図り、行政向けの「プロポーザル・コンペ支援リーフレット」を用いて行政へのアプローチや発注者支援を行っています。JIA建築家大会2018東京においては、環境、保存、災害、まちづくりの4会議合同のシンポジウム「ストックの再評価・地域ポテンシャルを活かす」を実施し、他会議との情報共有、相互協力を図りました。

## 5)JIA災害対策会議

今年度は大阪府北部地震や北海道胆振東部地震等、震度6弱以上の地震が頻発し、西日本の豪雨被害による犠牲者も多く出ました。その都度、本部と関連支部に災害対策本部を設置し支援活動をサポートすることに担当会議体として協力してきました。

またJIAらしい災害支援活動が行えるように、新たなJIADCP（「JIA地域継続計画」）の策定と災害ネットワークの構築に今年度も尽力してきました。JIA建築家大会東京では全国4会議合同会議では、これまでのJIAの災害支援活動や事前復興活動の取り組みを発表しました。さらには福島の木造仮設住宅再利用支援プロジェクトの一環としてネパールへのログ仮設移設の2019秋完了に向けての準備を進めています。

## 6)その他の活動

### ①全国卒業設計コンクール実行委員会

2018年6月23日からの2日間、東京・新宿アクアプラザにて全国卒業設計コンクールを開催しました。全国から選抜された優秀作品51点を展示、審査し金賞1作品、銀賞1作品、銅賞1作品、審査委員特別賞5作品を決定しました。

### ②JIA文化財修復塾WG

毎月、Webを活用した定例会議を開き、活動計画とその成果、全国保存再生会議内での役割分担、ヘリテージマネージャーとの関係、文化財修復塾WGの規約およびマニュアルについて検討しました。

また、17年度に引き続いて18年度も塾生を応募し文化財修復塾を開講した。座学4回は、初年度行った講習会での講義をビデオ録画したもの(JIAホームページに掲載されている)を活用し、受講者のいる各支部でそれぞれ4回の現地講習を行いました。第9回最終講座は、JIA本部に文化庁の梅津氏を講師としてお招きして行ったが、Web活用して参加した支部もあり活発な発表と討議が行われました。本年度の修了生は、各支部併せて8名であり卒業者は81名となりました。今後の修了者の活動がどうあるべきかが喫緊の課題です。

### ③その他

下記2つの事業ユニットについては、外部からの業務の委託がなかったことから、本年度は特に活動を行いませんでした。なお、事業ユニットの組織自体に関して、その位置づけが体制を含め今後検討が必要と考えています。

- ・歴史的建築データベース事業ユニット
- ・熊本地震 JIA 文化財ドクター派遣ユニット

## Ⅶ 支部長報告

### 1. 北海道支部(遠藤謙一良支部長)

2018 年度は、時代に対応した目的・社会性・意義を整理し、社会や会員にとって価値あるJIA北海道支部として組織力を高め有意義な活動を行いました。北海道と進めておりました南幌町街づくりのモデルハウスの実現やプロフェッショナル向けのJIA建築スクールの開設、民間ビル新築コンペの企画開催、函館・旭川・釧路にて建築展、市民向け建築家セミナーを開催、9/6 北海道胆振東部地震(最大震度 7)の発生に対し災害対策本部を立ち上げ安否確認をはじめ防災視点から街や建築の性能について協議。学び、考え、社会へより繋がるJIAをめざしました。

#### [本年度の主な事業活動]

- 1)第 4 回北海鋼機デザインアワード(4/13-15)
- 2) (仮称) 松原ビルプロポーザルコンペ企画開催(4/5・5/18)
- 3)Asahikawa School 全 6 回(5/16、6/23、9/20、7/18、12/12、2/20)
- 4)南幌町「みどり野きた住まいるヴィレッジ」モデルハウス 5 棟グランドオープン(6/2)
- 5)坂本昭講演会(6/9)
- 6)JIA建築家展巡回展(5/15～5/20 函館・6/5～7/1 旭川・7/4～7/8 釧路)
- 7)JIA・テスクチャレンジ設計コンペ公開審査(7/22)
- 8)法人協力会合同セミナー(9/21)
- 9)淵上正幸講演会(10/11)
- 10)北海道と建築 7 団体意見交換(11/13)
- 11)船木幹也さんの著書について語る集い(12/1)
- 12)プロフェッショナル向け JIAスクール全 4 回(10/25、12/5、3/13、3/15)
- 13)協力会との親睦行事(8/3 ビール会、11/21 ボウリング、1/17 新年交礼会)
- 14)(株)NCN木造非住宅構造耐火セミナー共催(3/19)
- 15)市民向け建築家セミナー 暮らしの茶話会(3/23)

### 2. 東北支部(鈴木弘二支部長)

東北支部は、昨年に引き続き「復興からまちづくり」としての目標を掲げ、復興支援の継続とまちづくりの支援を地域会と共に進めてきました。さらに本部と連動し国際交流の一環として、AIA2018 大会へのツアーの企画及び参加をし、海外の見聞と交流を広げました。また、10 年振りに東北支部が主幹となる、「JIA 建築家大会 2019 青森 in HIROSAKI」を開催することになり準備委員会を立ち上げ、大会の企画立案に取り組んでいます。

主な事業は、5 月の支部・協力会総会・建築家フォーラムを開催、6 月は「NY で開催された AIA2018 大会へのツアー」への参加、建築設計3団体と「東北公共建築設計懇談会」・「設計三団体サミット」の開催。8 月は、鶴岡で妹島和世が設計された「荘銀タクト鶴岡」の完成を記念し、妹島氏の講演会を企画・開催しました。9 月にはアルカジア 2018 東京大会、JIA 建築家大会 2018 東京に参加。10 月末には山形での「芋煮会」、「第 22 回 JIA 東北学生賞」を開催しました。11 月は、「第 12 回東北住宅大賞」一次審査会。また、「建築家大会 2019 青森 in HIROSAKI プレイベント in 福島」を開催。12 月には「建築学生テクニカルセミナー」を開催しました。

2 月は「第 2 回東北公共建築設計懇談会」を開催、3 月に「第 12 回東北住宅大賞 2 次現地審査会」を行い、「湯守の旅籠/井上貴詞」が大賞を受賞しました。また、「JIA 東北学生卒業設計コンクール」を開催しました。



復興関連では、被災三県の地域会に対しての支援継続と共に、福島の木造応急仮設住宅のリユースの継続支援を進め、宮城や岩手、ネパールへ木造仮設を運び込む活動の支援を行なっています。

### 3. 関東甲信越支部(藤沼傑支部長)

会員数が減少する中、活動を維持発展するため、次世代育成、行政との連携強化、東京都内地域会改革について協議を継続しました。

次世代育成のため、品川区大井町駅前パブリックスペース設計コンペ開催を支援し、227 点の応募から全国大会にて公開審査を実施しました。若手会員を増やすため、活動の見えるかを促進するため、支部サイトをリニューアルしました。これにより、例えば年4回開催されているJIAトークが活動報告をHPに掲載し始めるなど、会員への周知が促進されました。文京地域会が小石川フォーラムを立ち上げるなど、各地域会においても次世代育成活動を展開し始めました。

また、長野地域会の卒業設計コンクールは過去最大の 57 作品、新潟地域会の県内学生課題設計コンクールでは 22 作品、北関東甲信越学生課題設計コンクールでは 52 作品、東京都学生デザインは 51 作品、大学院修士設計展は 48 作品、他の地域会の学生対象コンクールでも多数の応募がありました。部会においては第 1 回住宅部会賞が開催されました。

こども空間ワークショップはこの 1 年間で約 30 回開催し、合計 1800 人以上のこどもが参加しました。

行政との連携は東京三会建築会議と都財務局と、主に告示 98 号について懇親会を開催。また、各地域会では文京地域会が新たに区と防災協定を締結するなど、連携を維持・強化しました。

東京都内地域会改革については、支部内活動の連携を強化するため、地域サミット(各地域会代表者会議)と委員長会議を 3 回合同開催しました。

定例の活動では、合計 246 件の建築相談、JR 原宿駅保存要望書提出、葛西臨海水族館パブコメ提出、童画家武井武雄生家解体に係るプロポーザル推奨提案、「コンペ・プロポーザル支援リーフレット」の頒布、「JIA 環境建築入選作品見学ツアー」等多彩に展開しました。

支部運営においては、支部事務局員の給与規定は本部規定を準用することとしました。

最後に、2018 年 9 月 13 日(木)から 15 日(土)までアルカジア大会と同時開催した全国大会は大会登録 793 人、協賛 88 社と多くの協力を頂き成功裏に幕を閉じました。

### 4. 東海支部(矢田義典支部長)

東海支部の本年度の主な活動は以下の通りです。

#### [本年度の主な事業活動]

#### 1)「災害対策」活動について

2019 年 2 月 2 日に「東日本震災復興に学ぶ」と題し、JIA 東北支部宮城地域会より手島浩之会員にお越し頂き、講演会を開催しました。また、三重地域会では今年度、三重県との「防災協定締結」に向けて協議を進めてきました。来年度「防災教育」を中心に協定を締結し、その後、協定内容を広げて行く予定です。

#### 2)「建築基本法」学習講演会の開催

2019 年 2 月 20 日に愛知地域会との共催で「これからの建築とまちづくり」をテーマとし建築基本法学習講演会を開催致しました。講師には神田先生にお越し頂き、東北支部からは松本元支部長、辻宮城地域会長にも参加いただきました。

#### 3)近畿支部と東海支部の交流会を開催

近畿支部との交流会を 2 回開催しました。第1回目は、2018 年 10 月 19 日に開催し、近畿支部より

井上支部長をはじめ 6 名の方々に東海支部にお越しいただき、第 2 回目は、2018 年 12 月 18 日に開催され、東海支部から私をはじめ 6 名が近畿支部に伺いました。第 1 回目は各支部での活動報告を行い、第 2 回目は近畿支部の「archi-salon」に参加をさせていただきました。

#### 4) 継続事業

東海支部の継続事業として、「東海学生卒業設計コンクール」、「JIA 東海支部設計競技」、「JIA 東海住宅建築賞」を実施しました。

### 5. 北陸支部(高屋利行支部長)

北陸支部の本年度の主な活動は以下の通りです。

#### [本年度の主な事業活動]

#### 1) 北陸支部大会 2018in 福井 5 月 12 日(土)13 日(日) - 建築を通じた国際交流 -

テーマ:「繋いでゆくこと・変えていくもの」(参加者 75 名、内正会員 46 名)

・対話集会「JIA 北陸支部のみんな力」高屋支部長、出田、浦、濱田各地域会長

・講演 1 大会記念講演 講師:国広ジョージ氏

・講演 2 講師:建築家 栗原健太郎氏

・講演 3 講師:建築家 田村裕希氏

#### 2) 卒業設計コンクール北陸支部審査会 5 月 13 日(日)

北陸 3 県から 9 名の応募があり、田村裕希、栗原健太郎、他会員審査員 3 名による公開審査会を行いました。

#### 3) JIA 北陸支部 30 周年記念事業

日 時:1 月 26 日(土)

場 所:金沢 21 世紀美術館 地下 1 階シアター21

・記念シンポジウム テーマ:地域と建築

パネリスト:建築家 西沢立衛氏、東京芸大 秋元雄史氏、文化庁研究官 朝倉由希氏

参加者:153 名(正会員 57 名、協力会員 16 名、準会員 8 名、一般 72 名)

・記念式典

来賓祝辞 石川県知事、金沢市長、六鹿会長

参加者:84 名(招待者 30 名、正会員 26 名、協力会員 25 名、準会員 3 名)

・懇親会

場 所:金沢 21 世紀美術館 fusion21

参加者:92 名(招待者 32 名、正会員 43 名、協力会員 14 名、準会員 2 名)

・共催事業 地域と建築展

日 時:1 月 22 日(火)~1 月 27 日(日)

場 所:金沢 21 世紀美術館 地下 1 階市民ギャラリー

来場者:延約 3,000 名

#### 4) 全国支部長会議IN金沢

日 時:1 月 25 日(金)~1 月 27 日(日) 本部、各支部計 15 名参加

金沢建築文化会議、全国支部長会議、支部 30 周年事業参加、金沢湊建築ツアー他

## 6. 近畿支部(井上久実支部長)

昨今の情報化社会の進展の中、政治、経済、国際情勢、教育等、様々な側面で、我々を取り巻く環境や社会が目紛しく変化しています。スピード、多様化が謳われる中、真の豊かさ、ゆとりを見失っているような気がします。我々建築家に求められるニーズも変化し、建築家はどうか、社会とどう向き合うのか常に問われています。

JIA 近畿支部は、昨年提出されました JIA 近畿支部基本政策諮問会議答申書に則り、今の時代に求められる建築家・JIA をめざします。

建築家は建築を通して社会や文化を豊かにする創造者であり、JIA は社会や文化に寄与する建築活動を行う専門家集団です。社会のニーズに柔軟に応え、自ら変化し、さらに次の時代の地域に根ざした街づくりや次の時代を担う若手建築家の育成に繋げていけるよう努力していく所存です。

JIA 近畿支部基本政策諮問会議答申書で発信された「JIA 近畿支部のこれからの活動」をさらに進めました。

### 1) 建築家を議論する

- ・建築家間の議論・意見交換や、他分野との交流を促すアーキサロンの実施  
第3回「建築家と社会貢献」第4回「建築家と地域活動」
- ・JIA 近畿支部【これからを考える】シリーズ第1回セミナー  
「市民は建築家に何を求めているか」
- ・役員会後の勉強会実施  
大船真言氏「空間と絵画、空間の多様性」  
倉方俊輔氏「建築の日本展について」  
福本朱美氏「支部ホームページの記事アップロードの仕方」  
藤原次郎氏「やりたいようにやって・・・撮る・・・」  
舟橋健雄氏「新たな地域・世界とのつながり方」  
森戸義貴氏「国土交通省とは」

### 2) 建築家を顕彰する

- ・関西建築家新人賞の実施。
- ・近畿支部学生卒業設計コンクールの実施
- ・日中韓ワークショップ、釜山アイデアコンペの実施
- ・支部建築家作品展、支部住宅賞の実施

### 3) 建築家をサポートする

- ・支部から会員への情報共有
- ・地域会間の情報を共有するため、ネットワーク拡充
- ・会員へのサービスとして契約、紛争等の会員相談窓口の整備
- ・法人協力会員を含む民間企業との連携
- ・在阪建築4団体インターンシップ実施

### 4) 建築家を発信する

- ・支部大会 in 滋賀の実施
- ・設計競技審査員派遣(箕面市)
- ・男山団地セルフリノベーション支援
- ・法人協力会員の商品開発支援

## 7. 中国支部(田中輝幸支部長)

2018年度は当初計画していた「JIA 中国建築大賞」「JIA 中国支部建築家大会」「全国卒業設計コンクール出品参加支援」の3つの事業を実施しました。また、若手建築家の活動の場としての住宅部会の活性化は長年の検討課題であったが、今年度初めて中国建築大賞受賞作品を巡る見学会を開催し住宅部会例会としてスタートしました。しかし、若い会員の増強や交流部会の増強については十分にできたとは言えません。今後とも、若い会員が参加しやすい活動や交流部会との交流を深め活性化を図る必要があると考えます。

### [本年度の主な事業活動]

#### 1) 第10回 JIA 中国建築大賞 2018

過去9回内藤廣氏に審査委員長をお願いしていたが、今回は最後の審査となった。榎村徹会員、村重保則会員、前田圭介会員を昨年と同じく審査員として実施しました。一般建築部門15点、住宅部門10点、計25点の応募がありました。その中から一般建築部門4点、住宅部門5点を一次審査通過作品とし、9月19～21日の3日間に渡って現地審査を行い、以下の受賞作品を決定しました。内藤廣氏の10年間に渡るご指導に感謝すると共に、中国建築大賞が今後益々発展していくよう支部会員一同努力していく必要があります。

- ・一般建築部門：大賞1点 優秀賞3点
- ・住宅部門：大賞1点 優秀賞4点

#### 2) JIA 中国支部建築家大会 IN 岡山 2018

11月16日・17日の2日間岡山市で開催しました。1日目は午前中、第10回 JIA 中国建築大賞2018の表彰式と講評に続き内藤廣氏への慰労式を行いました。午後からは、コメンテーターとして出江寛元 JIA 会長、内藤廣氏、山田暁元支部長を迎えてデザインフォーラムが行われました。2日目は、倉森治名誉会員、山田孝延会員の解説を受け、佐藤武夫設計の岡山市民会館や RSK 山陽放送会館などを見学して歩きました。昼食の後のエクスカージョンではノートルダム清心女子大学を訪れ、上田恭嗣教授の説明を聞き大学内を見学しました。

#### 3) 全国学生卒業設計コンクールへの出品参加の支援

「JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2019」から1点及び「広島8大学卒業設計展 2019」から4点の計5点を「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2019」に推薦しました。今年度は JIA 中国支部から今川忠男会員が審査員として参加しました。

#### 4) JIA 中国支部住宅部会 2019 例会

「中国建築大賞住宅部門受賞作品を巡る」と題して、3月23日、岡山県内の谷万成の家(神家昭雄氏)、門前の農家(大角雄三氏)、西七区の家(野田大策氏)を訪れ、設計者の説明を聞き見学して廻りました。その後の研修会では数名による自作品のプレゼンもあり有意義な初回例会であった。会員外の方も多く29名の参加者でした。

#### 5) 広島県「魅力ある建築物創造事業」への連携協力

今年度は次の事業について広島県へ審査員派遣を行いました。  
「2018年度ひろしますまいづくりコンクール」

## 8. 四国支部(武智和臣支部長)

四国支部の本年度の主な活動は以下の通りです。

### [本年度の主な事業活動]

#### 1) 四国支部大会 in 内子 「地域に生きるとは建築家とは」 2018年5月26日

- 2) 四国建築賞 2018 会員内外から 24 作品応募 大賞は「Nuki House」細木淳  
2018 年 8 月 31 日 1 次公開審査 2 次審査 10 月 2、3 日
- 3) 四国巡礼建築 88 か所事業 徳島県内作品見学会 建築家の自邸を中心 2019 年 3 月 23 日
- 4) 資格制度認定評議会 高知オーテピアにて公開で開催 2019 年 3 月 8 日
- 5) 卒業設計コンクール 高知工科大学 高知高等専門学校 河原学園対象 2019 年 2 月 27 日
- 6) 四国支部セミナー「環境デザインの授業」講師 中村勉、塚本由晴 2019 年 3 月 30 日

## 9. 九州支部(川津悠嗣支部長)

九州支部は 8 つの地域会を抱えることもあり、各地域会活動の活性化のサポートと地域間連携の要となることを意識した事業活動を行っています。特に今年度は隔年開催しています支部大会を鹿児島県奄美市で行い、離島にもかかわらず 50 名以上の参加がありました。また毎年行っています JIA 九州建築塾を長崎県壱岐市において「海流で繋がる九州の島々」というテーマで行いました。どちらも離島で活動する会員の支援と会員・スタッフのスキルアップを目的とし、密度の濃い印象に残る事業となりました。2017 年が JIA および九州支部発足 30 年であったことから、支部のこれまでの歩みを記録にまとめ、先達の思いを引き継ぎ次の世代へ伝えるための 30 周年記念誌制作事業を進め、記念誌を発刊しました。また 2005 年より継続してきました発注者支援事業である「福岡県弁護士会館」のコンサルタント事業が、新会館の竣工とともに完了し、多方面からの評価をいただきました。

### [本年度の主な事業活動]

- 1) 会員集会(福岡):2018 年 4 月
- 2) 2018 建築家大会(東京):2018 年 9 月
- 3) 九州支部大会(鹿児島):2018 年 12 月
- 4) デザインレビュー2019(福岡):2019 年 3 月
- 5) JIA 九州建築塾(長崎):2019 年 3 月
- 6) JIA 九州支部30周年記念誌発行:2019 年 3 月
- 7) 福岡県弁護士会新会館コンサルタント事業:2019 年 3 月

## 10. 沖縄支部(當間卓支部長)

2018 年度は支部長として、2 期 4 年の任期を締めくくる 1 年となりました。沖縄支部は活発な公益事業を展開しながら、少数精鋭の 1 支部としてしっかりと組織運営を担ってきました。また、多くの若手会員が活動し、活性化していることで会員が増え、就任当初に立上げた新規事業や継続事業が軌道に乗り、更に積極的に取り組んだ 1 年となりました。

主な事業としては、若手建築家の人材育成事業、建築家活動の国際化を目的とした事業、広く県民に支部活動を知ってもらうための事業を実施しました。

### [本年度の主な事業活動]

- 1) 第 3 回沖縄未来建築塾:年 8 回開催、U-40 若手設計者、学生対象。県内外より講師招聘
- 2) 第 6 回県主催 U-40「ティーダフラッグス 2018」公開審査に審査委員として参加
- 3) 国際交流事業 in マレーシア:マレーシア建築家協会、現地建築家と交流
- 4) 第 5 回沖縄建築賞:建築設計三会と共催。書類審査、現地審査に参加。
- 5) 支部活動総括となる「2018 沖縄建築展～す・ま・い展」を開催、展示、講演会、ワークショップ等